

春季高校野球県大会組み合わせ 優勝争い 中部勢軸

第66回春季高校野球県大会の組み合わせが22日、決まった。27日に草薙など4球場で開幕し、各地区大会の上位8校、計24校が出場する。決勝は5月4日、草薙球場で行う。上位8校が今夏の全国選手権静岡大会のシード権を獲得し、上位2校は東海大会（5月24、26日、草薙、清水庵原球場）に出場する。

投手力のある中部勢などの実力校が入り、最激戦区となった。御殿場西は地区大会では制した静岡商は、打たせて取る勝間田と力で押す高田の両左腕を擁し、長打力が光る杉本、藤好を軸に打線も好調。ただ、同ブロックには昨秋の県王者御殿場西（東部4位）や日大三島（東部2位）、大三島（東部2位）、浜松商（西部4位）、藤枝明誠（中部5位）などの実力校が入り、最激戦区となった。御殿場西は地区大会では制した静岡商は、打たせて取る勝間田と力で押す高田の両左腕を擁し、長打力が光る杉本、藤好を軸に打線も好調。ただ、同ブロックには昨秋の県王者御殿場西（東部4位）や日大三島（東部2位）、大三島（東部2位）、浜松商（西部4位）、藤枝明誠（中部5位）

園（中部4位）は宮原坂田の両2年生左腕が好調で、失点も少ない。常葉大橋（中部2位）も最速147キロの市川と制球力、切れで勝負する芦沢の右腕2枚が安定している。

昨秋に続き東部を制した加藤学園は、3年の左腕内田が安定し、秋の実績がある肥沼との継投で接戦をものにしてきた。同ブロックでは、昨秋県準優勝の清水桜が丘（中部5位）、投打にバランスがよい浜松西（西部3位）などが対抗しようだ。浜松西は昨秋からの主戦平野に加え、181センチで右横手の吉田が急成長している。

3年ぶり出場の浜松工（西部2位）のブロックは、昨夏まで5年連続でシード権を獲得している東海大翔洋（中部3位）、高校日本代表1次候補の紅林を擁する駿河総合（中部5位）などが入った。いずれも攻撃力が高いだけに、投手陣の出来が勝敗を分けそうだ。

